

ひとに大事にされるということ



6月7日(水)、子どもたちみんなで、近くの佐藤家住宅(国登録有形文化財)に散歩に行きました。幼稚園を出て、佐藤工業の前を通り、東邦銀行泉支店の手前で西に曲がり、少し歩くと佐藤家に到着です。門を入ると、そこには緑の庭が広がっていて、大きな茅葺屋根のお屋敷があります。

佐藤さんは、子どもたちの声が聞こえると、すぐに出てきてくださいました。子どもたちがあいさつをすると、「みんな、家の中も見ていいよ。入ってみる?」と言って、さっそく茅葺屋根の大きな家の中へ案内してくださいました。するとそこには、見たことのない昔の道具がたくさんあります。好奇心旺盛な子どもたちは、「これは何ですか?」と、次々にきいていきます。それに佐藤さんが一つ一つ丁寧に答えてくださいました。

「これは、鉄瓶(てつびん)って言うんだよ」。「へえ!」と子どもたちは、目を丸くしています。

「ここは、『囲炉裏(いろり)』。今度、この囲炉裏で火を焚いてあげるからね。」と佐藤さんが言ってくださいました。すると子どもたちが、「やきいももできますか?」ときいています。佐藤さんが、「焼き芋でも、豚汁でも何でもやっていいよ。」と言ってくださいました。もう子どもたちは大よろこびです。

家の中の見学を終えて外に出るときに、ひとりの男の子が言いました。

「この家、ぜんぶ 木でできているよ! 僕、こういう家がいいな・・・。」

その後、子どもたちは、広い庭に出て、思い思いに遊びました。大きな松ぼっくりを拾ったり、池のトンボを見たり、シロツメクサの上でゴロゴロ転がったりして、いっぱい遊ばせてもらいました。

帰る時間になりました。子どもたちは整列すると、先生に言われなくても、自分たちでちゃんと「ありがとうございました。」と声をそろえてお礼を言うことができました。子どもたちは本当に楽しかったのだと思います。子どもたちが、「また来てもいいですか?」ときくと、佐藤さんが「いつでも来ていいよ。車に気をつけて帰るんだよ。」と優しく言ってくださいました。

そうして、また仲良しグループの友だちと手をつないで、歩いて幼稚園に帰ってきました。

こういうふうになんにも大事にされた子どもたちは、「人っていいな。信頼できるんだな。」と思うようになっていきます。そうして友だちや他の人にも優しくできるようになっていくのだと思います。

帰り道、子どもたちが手をつないで歩いていると、路線バスの中から手を振ってくれる人がいます。その後ろの席に乗っていた人も同じように手を振ってくれています。

子どもたちは、地域のみなさまに大事にさせていただいて、心優しく育っています。